第二十一講・宮沢賢治①（伝記）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

宮沢賢治は、自分の理想とする世界を求めてはげしく燃え続けた、太陽のような人であった。人間も動物も自然も一つになって、心を通い合わせることのできる「まことの幸せ」がどこかにありはしないかと、生涯をかけてさがそうとした。

そのためには、自分の肉体がどうなってもいいと考えた。教師になって、自分の理想を説き、自ら農民になって土に生きる者の悲しみを知ろうとした。

しかし、①理想と現実はあまりにもちがいすぎた。宗教に学んでも、自然のふところに飛びこんでも、賢治のはげしい思いをとげることはできなかった。

それならば、せめて童話の中で自分の夢を実現したいと、身をけずる思いで作品を書き続けた。

②賢治童話の舞台は、目の前の林や野原であったり、風のふく山の中であったり、星のかがやく夜空であったり、いつもわたしたちの身近にある場所だ。それでいて、わたしたちをたちまち不思議な世界へ運びこんでくれる。まるで昔話のように、人も動物も精霊もいっしょになって登場する。

「ざしき童子のはなし」という短い童話がある。だれもいない家の中で、ほうきを使う音が聞こえてきたり、子どもたちが遊んでいると、いつのまにか一人増えていたりする話だ。こんなそぼくな話でも、幸せをよぶざしき童子に住みついてほしいと願う農民の思いがいきいきと伝わってくる。

〈西本鶏介「宮沢賢治」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　筆者は、宮沢賢治をどんな人だと考えていますか。それが分かる部分を文章中からぬき出し、初めと終わりの五字を答えましょう。

□□□□□〜□□□□□

(2)　――線①「理想と現実」とありますが、「理想」と「現実」のそれぞれについて分かる一文の、初めの三字を文章中からぬき出しましょう。

理想 □□□　現実 □□□

(3)　賢治が童話を書き続けたのはなぜですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　理想を説きながら農民とともに生活をした現実を、童話の世界で表現したかったから。
イ　理想の世界と現実の世界のちがいを体験し、童話の中で理想とする世界を実現したかったから。
ウ　理想と現実のちがいを童話にしたいというはげしい思いがあったから。

□

(4)　――線②「賢治童話」とは、どのような童話ですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　身近な場所が舞台だが、どこか不思議な童話。
イ　身近な昔話のように、どこにでもあるそぼくな童話。
ウ　身近な場所に精霊などが登場し、少しこわい童話。

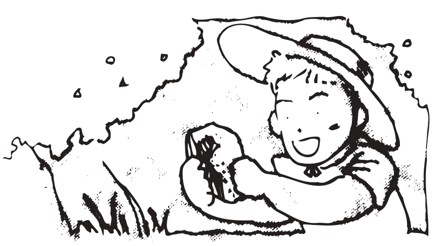
□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

賢治は、植物や石ころを集めるのが大好きな少年であった。盛岡中学校へ通うようになると、独りで岩手山へ登り、植物や鉱石を採集しながら、自然のきびしさと豊かさを学んだ。

①中学を卒業しても、賢治には自然のみりょくがわすれられなかった。このまま家にいて、父の仕事を手伝おうという気持ちが起きてこないのだ。そのころ、たまたま読んだ宗教の本に深く感動した賢治は、店のあとをつぐより、いつか世の中のためになる仕事がしたいと考えるようになった。



一九一五年（大正四年）、賢治は、盛岡高等農林学校へ進学することを父から許された。中学時代に続き、野山をかけめぐり、地質や土の科学調査と実験に打ちこんだ。

賢治は、学校にもどると実験室にとじこもり、持って帰った石のかけらや土をけんび鏡で調べた。単調な仕事にあきてくると、賢治は仕事のことをわすれて、石や土の不思議な模様をながめた。

（②命のないものでも、こんなにすばらしい美しさを持っている。）

それは、美しい空想となって、どこまでも広がっていく。

（この美しさを文章にすることができたら、どんなにすてきだろう。）

賢治は、急に童話が書いてみたくなった。③その気持ちを詩にうたいたくなった。童話の中では、現実にできないことがいくらでもできる。現実には見えないものまで見ることができる。動物も人間も自由に言葉がかわせる。だれもが仲良くくらせる理想的な世界だってつくることができる。こうして、賢治は童話を書き始め、心にうかぶ思いを詩に書いた。

〈西本鶏介「宮沢賢治」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) 賢治はどのような少年でしたか。文章中からぬき出しましょう。

(2) ――線①「中学を卒業」したところ、賢治はどのようなことを考えるようになりましたか。文章中からぬき出しましょう。

(3) 賢治が(2)のように考えるようになったのは、どんなことがあったからですか。文章中の言葉からぬき出しましょう。

から。

(4) ――線②「命のないもの」とは、ここでは何を指していますか。文章中から三字でぬき出しましょう。

(5) ――線③「その気持ち」とは、どんな気持ちですか。文章中の言葉を使って答えましょう。

(6) 賢治は童話を書くことで、どのようなことができると考えたのですか。それが分かる部分の初めと終わりの十字をぬき出しましょう。（、や。も一字に数えます。）

～

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講・確認テスト

次の□に当てはまる身体の一部を入れ、慣用句を作りなさい。

1 □が立つ――面目（めんぼく）が立つこと

ア 頭　イ 体　ウ 顔　エ 足

2 □が早い――うわさなどをすぐに聞きつけること

ア 耳　イ 口　ウ 足　エ 目

3 □がうまい――だますのが上手なこと

ア 鼻　イ 口　ウ 目　エ 耳

4 □が黒い――心に悪だくみがあること

ア した　イ 心　ウ 胸（むね）　エ 腹（はら）

5 □が棒（ぼう）になる――つかれはててしまうこと

ア 足　イ 手　ウ ひじ　エ 目

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十一講　宮沢賢治（みやざわけんじ）①（伝記）

一題目

(1) 自分の理想 ～ のような人
(2) 理想…人間も
　現実…宗教（しゅうきょう）に
(3) イ
(4) ア

二題目

(1) 植物や石ころを集めるのが大好きな少年
(2) （店のあとをつぐより、）いつか世の中のためになる仕事がしたい
(3) たまたま読んだ宗教の本に深く感動した（から）。
(4) 石や土
(5) （例）（石や土のような）命のないものでも持っているすばらしい美しさを、文章にすることができたらどんなにすてきだろうと思う気持ち。
(6) 童話の中では、現実に（現実にできないことが）～ つくることができる。

〈確認テストの解答〉
１　ウ　２　ア　３　イ　４　エ　５　ア

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。